

2023 年度 学校関係者評価 報告

1. 学校関係者評価の概要

1) 基本方針

実践的な職業教育の質を担保するため、自己点検・自己評価の結果について、客観性を高めるとともに、保護者、その他の関係者（教職員を除く）による評価を通して、継続的に教育活動及び学校運営の向上を図る。

2) 評価結果の活用方法

年1回開催される学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価の結果について説明を行い、委員からの評価、意見を求める。委員からの評価を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。改善点や課題について学校運営会議で報告する。改善を必要とする項目について8月以降、副学校長が対応を検討し必要時、教務会議で決定し実施する。

2. 学校関係者評価委員

柳田 太平	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 病院長
杉本 美由紀	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副看護部長(教育担当)
穴井 こずえ	製鉄記念八幡看護専門学校 同窓会 若竹会会長
村上 博美	製鉄記念八幡看護専門学校 学校後援会会長

3. 開催日 2024年6月7日(火)

本年度の学校関係者評価は書面をもって意見交換及び質疑・応答を行った。

4. 学校関係者評価 報告

1) 自己点検・自己評価項目及び結果(3.0満点)まとめ別紙

I 教育理念	2.8
II 教育目標	2.8
III 教育課程経営	2.4
IV 教授・評価過程	2.4
V 経営・管理過程	2.1
VI 入学	2.5
VII 卒業・就業・進学	2.6
VIII 地域社会・国際交流	2.0
IX 研究	1.6

2) 意見

- 教育理念・教育目的について、教員のみならず学生にも浸透できていることへの取り組みは評価できる。
- 教育目標では全教員での取り組みが高評価につながっていることは評価できる。
- 教育課程経営で、教育課程評価の体系について、評価が上昇しておりその分析もされていることは評価できる。継続してほしい。
- 教育課程経営に関して、教員の人材確保や育成へ取り組まれているが、引き続き継続した対策や実施が必要だと感じる。それに伴い、教員の働き方改革への取り組みも、DXの利用を推進するなどの強化も必須だと考える。
- 教育課程経営では、厳しい状況の中、コロナ禍で4年間の中止を経て臨地実習指導研修会を再開したことは評価できる。
- 経営・管理過程、入学について、
看護師育成の学校運営においては利益を求めものではないものの、収益と全く関係ない訳ではなく、入学者の確保の目標は必要と考える。その目標に向けて、学校でも検討・対策を講じられており、追加の対策も計画されているため、入学者数の増員に繋がるのではないかと考える。
- 3年間の子どもの学校生活を通して、教育体制であるアドバイザー制により学生1人1人へのフォローが行き届いていると感じている。また、学校後援会があることで保護者が学校の様子がよく理解できること、教員との関係性も構築しやすく、相談もしやすい環境であった。入学してからどのように子ども達が成長していくのか上級生の保護者との交流が安心感につながった。子ども達はコロナ禍で過ごしたので行事ができず、残念であったが今後は後輩との交流が図れるよう行事も行えると良いと考えている。